

中学生の時は親に食つてかかり、対決姿勢だった子どもも、高校生になるとほどんどが落ち着きます。一方で、部活ばかり、バイト三昧……。何を尋ねても冷やかさ態度で去つてしまい、親としては心配も多い年代です。いざ進路について話し合うにも、普段からの関係性がとても大切。そこで、高校時代の子どもをどう理解し、関係づくりをしたらしいのか、幼稚園生から大学生まで、すべての年代の子どもを指導した経験をもつ、花まる学習会代表、高濱正伸先生にお聞きしました。

花まる学習会
Hanamaru Group 代表

高濱正伸



高校生の今、 わが子の成長に 親ができることは



高校生の特質と 家庭でのコミュニケーション

—成長の過程から見て、高校生はどんな時期なのでしょうか？

高濱 小学生から大学生までたくさんのお子さんを見てきた経験から、小学校3年生くらいまでを「赤い箱」（幼児期）、5年生くらいから18歳までを「青い箱」（思春期）と成長過程を分けて考えています。高校生は、「青」でも、ほぼ完成形。すでに親の前で見せている姿と、友達同士の時とではだいぶ違います。高校生でキレキレの子たちの評論などは、政治家などぶつた切るくらいの鋭さですし、冷めきつているようでも熱いです。ただ、経験総量が足りないので、どうしても綺麗事で物事を考えようとしてしまつこともあります。人間の本質までは見えない。その辺が「青いな」と感じるところもあります。

—親にしゃべらなくなり、普段の行動がわからないうので、確かめたいのですが……。

高濱 それはムリですね！ 正直なところ、高校生は親とは一線も二線も引いた会話しかしませんし、親を傷つけない言い方をして、本音は話しません。

私は、子どもが自分の思っていることをさらけ出して話ができる大人に預けて、お任せするのがよいと思っています。親としては誰に預けるかが勝負ですね。そして、親は家の外で生き生きと仕事をするなど、人生を満喫している姿を子どもに見せるのがいいですよ。仕事から帰ってきた父親が愚痴ばかり言う家庭の子どもは、長期的に見て伸びなかつたという研究もあります。

—母親が父親のことを悪く言つることもダメですね。高濱 それは、まさに「あるある」的な、母親がついやつてしまうダメなことです。私は、26年にわたり、やる気もなく、心が育たない子どもに関する相談を受ける取り組みに携わってきましたが、母親の言う夫の愚痴は、子どもにものすごく悪い影響があ

進路を選ぶ時、親にできること &できないこと

—子どもの進路について話し合うために、良い方法はありますか？

高濱 進路の話をする頃まで良いコミュニケーションを取つて、距離感を保てていて家庭の方が少ないと思うので、話し合いは難しいことが多いと思います。そうした家庭には、親ではない大人、例えば10歳離れた社会人の従兄弟（従姉妹）とか、近所のお兄さん・お姉さんなど、お子さんが腹を割つて話ができる存在がいると大きいです。子どもは、そうした人に「なぜ〇〇大学を選んだの？」とか「今、仕事楽しい？」など知りたいことを聞くことができるとともに、とても影響を受けます。「その人が推薦する本なら絶対読む」みたいな、親も安心できる存

ると感じています。そういう家庭の子どもは、「家の中は母と自分にとつて居心地の良いスペース」で、「家の外は父が働く嫌な場所」だと感じてしまい、社会に対して不信感を抱き、夫婦になることさえも悲惨なものだと思つちやう。今の世の中で、仕事を失わず、家にきちんとお金を入れてくれているお父さんは十分に頑張っています。その頑張りを正当に子どもに伝えることが必要だと思いますね。

—では、普段、高校生の子どもと、どんな話をしたらいいのでしょうか？

高濱 愚痴ではなく、腹を割った本音を話してあげてください。赤の箱の子どもたちには原則論を伝えますが、青の箱の10代が知りたいのは、「人生の本音」です。父親と息子、母親と娘など、同性同士の方が相性は良いですね。例えば、お父さんが息子に仕事の話など、具体的に世の中の厳しさを伝えることをお勧めします。お母さんなら、男性との付き合い方から別れ方、結婚について、お化粧についてなど、その中に自分の人生を語つてもいい。高校生の心にスースッと入っていきます。

ると感じています。そういう家庭の子どもは、「家の中は母と自分にとつて居心地の良いスペース」で、「家の外は父が働く嫌な場所」だと感じてしまい、社会に対して不信感を抱き、夫婦になることさえも悲惨なものだと思つちやう。今の世の中で、仕事を失わず、家にきちんとお金を入れてくれているお父さんは十分に頑張っています。その頑張りを正当に子どもに伝えることが必要だと思いますね。

—では、普段、高校生の子どもと、どんな話をしたらいいのでしょうか？

高濱 愚痴ではなく、腹を割った本音を話してあげてください。赤の箱の子どもたちには原則論を伝えますが、青の箱の10代が知りたいのは、「人生の本音」です。父親と息子、母親と娘など、同性同士の方が相性は良いですね。例えば、お父さんが息子に仕事の話など、具体的に世の中の厳しさを伝えることをお勧めします。お母さんなら、男性との付き合い方から別れ方、結婚について、お化粧についてなど、その中に自分の人生を語つてもいい。高校生の心にスースッと入っていきます。

